

健診検査として行う認知症検査

長谷川式簡易スケール HDS-R 実施のポイントと実績

◎浅井 圭子¹⁾医療法人社団 石鎚会 田辺中央病院¹⁾

【はじめに】認知症は年々増加しており、若年性認知症、軽度認知障害（MCI）を含めるとその対策は喫緊の課題となっています。

当院健康管理センターでは認知症早期発見のためドックオプションとして長谷川式簡易スケール（以下 HDS-R）を実施しています。今回、健診検査として HDS-R を行う上での注意点や実績について報告します

【対象】期間：2010 年 8 月～2018 年 5 月 対象：健康管理センターを受診され HDS-R を実施された 70 名

M 35 名（50～85 歳 平均 85 歳）F 35 名（51～86 歳 平均 71 歳）

【結果】カットオフ 20/21

正常 57 件（M27 件 50～85 歳平均 70 歳・F30 件 51～85 歳平均 71 歳）軽度 4 件（M2 件 85 歳平均 85 歳・F2 件 74～75 歳平均 75 歳）

中等度 6 件（M4 件 62～85 歳平均 78 歳・F2 件 74～75 歳平均 75 歳）やや重度 2 件（M1 件 79 歳・F1 件 86 歳）重度 1 件（M1 84 歳）

【検査を行う上でのポイント】

- ・検査実施場所の確保と整備
受診者と対面ではなく横向きで向き合う
室内のカレンダーや時計をはずす
 - ・難聴への対応
検査前に認知症アセスメントシート DASC-21 を作成
 - ・表現の統一
定規とものさし、ボールペンとペンなど被験者により呼び方が変わるものは検査前に統一しておく
 - ・マンパワーの確保
看護部、事務との連携
- 【まとめ】認知症検査は私たち臨床検査技師が積極的に関与できる領域であり早期の診断から適切な治療・ケアにつなげる必要がある
健診検査として今後も知識と経験を重ね、フィードバックしていきたい
連絡先：0774（63）1111（内線）1112